

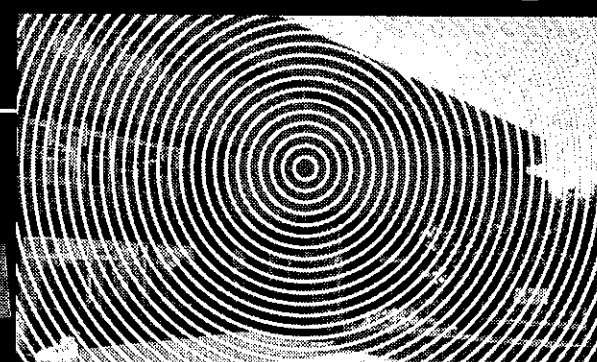
介護報酬引き下げで外国人スタッフ頼み

高齢者施設

きつ・汚い・給料安い

一体どうすりゃいいの？

「修羅場」ルポ



安倍首相も試した介護ロボット

介護職員による虐待があった施設も

すでに働いている外国人スタッフもいる (写真はイメージ)

いアザができて、歯が欠けていました。職員さんに何が合ったのか聞いても『分かりません、済みません』という返事でした。施設担当のお医者さんに話をしても、『認知症というものは治らない病気です。高熱が出たり、大きな手術

介護専門学校がドンドン潰れる

都内の介護付き有料老人ホームに九十代の母親が入居している六十代男性も、職員不足によるケアの劣化を目の当たりにしてきた。『月々の支払いは約二十三万円です。高額な一時金が必要な施設ではありませんが、経済的には軽い負担ではありません。親は貯えがほとんどなかったため、自分たちの老後資金として考えていた貯金を取り崩しています。入って驚いたのは、職員さんたちの年齢です。私より年上の、七十歳

がないですよ。本人に聞いたら『派遣で働いている』と言っていました。特養などを運営する社会福祉法人あかねの松本真希子・経営統括本部長が「人手不足」の現状を語る。『今、(人気がないため)介護専門学校がドンドン潰れたり募集停止に迫り込まれています。志が高いスタッフを確保する事は介護現場にとって最も重要ですが、実際は『まあまあの人材』に求めてもらう事も難しいのが実情なのです』

「今回の介護報酬引き下げは将来的に考えた時、世の中にとっては大きなマイナスです。今の介護現場はすでに非常に厳しい状況です。その環境をさらに悪化させる施策が本当に望ましい事なのでしょか」

この女性の母親は四人部屋にいます。認知症により、もう正確なコミュニケーションを取る事はできない。唸り声を上げながら、タオルケットをギリギリと噛み続けている。女性が母親の手を握りながら言う。『以前両手を動けなくさせて、それ以来噛み癖がついたんです。ストレスや不安の現れだと思えます。こうして手を握ったり、落ち着かせると治まるので……。私も日中は仕事がありまして、とても自宅では介護をできない状態ですので、月々約五万円という安い料

四月から介護報酬が平均二・二七%引き下げられることが決定した。ただでさえ人手不足に悩まされている介護業界では、さらなる労働力の空洞化が懸念され、動揺が走っている。現在、介護の現場で何が起きているのか。職員や利用者の家族に実情を聞いた。

して恵まれず仕事を辞める人が後を絶たない。そんな介護現場で働く人々に話を聞くと、やはりその実態は過酷だ。

「僕らの仕事は、3Kの象徴。みたくないもんですから。きつい・汚い・臭い・給料が安い。……あれ、四Kですね。悲しい」を入れたら5Kか」

自虐的に笑うのは千葉県の有料老人ホームで働く茅原明彦さん(仮名・35)だ。茅原さんが経験したのはまさに過重労働だった。

外国人スタッフには男性も(写真はイメージ)



「以前勤めていた老人ホームでは日常的に人手不足で、介護職だけでなく事務職員も不足していました。僕は介護職だったんですが、ある日突然『今日から(事務職の)ホーム長の業務を兼務してくれ』と上司から言われたんです」

サービスクラスをするように言われていました。その会社で運営する施設? ええ、まだありますよ」

人手不足による事故も日常化しているという。都内の介護老人保健施設(老健)で働く新田千秋さん(仮名・32)は現在約半年間の育休中だが、その半年で既に同僚が五人辞めた。

「入居者は約五十人です。老健は本来脳梗塞など重い病気を患った人が自宅で生活できるまでのリハビリやケアを行うための施設です。三カ月で出る事が原則なんです。実際は大半の入居者が認知症で、書類上だけ一日退去して再び入居した形にして、何年も入居した

その日から、想像を絶する日常が始まった。

「朝は八時十五分までに出社し、掃除などを済ませて九時からホーム長として勤務。十八時からはそのまま、介護職」として夜勤に入り、翌朝の九時に上がる。ひどい時はそのままホーム長として夜の十八時までぶっ通しで勤務した事も。十三時間労働ですね。意識は常に朦朧とした状態で、一番怖かったのは、病院への送迎車の運転でした。缶コーヒーを常備していましたが正直何度もヒヤリとする時がありました」

神奈川県の特養に勤めていた池田浩さん(仮名・42)は、精神的に追い込まれて昨年末に介護職から離れたばかりだ。

「何度か転職を繰り返して、直近の施設では七年間働きました。私たちの業界では三年くらいで転職する人が多い。常に『もう少しだけでも良い待遇』を求めているからです。

私は二年程前から役職に就き、チームをまとめる役割になりました。そこから

ままの人も多くいます。

日中は入居者を職員四人で見えています。夜間は職員二人、看護師が一人。三年ほど前は日中六、八人、夜間は職員三人、看護師一人の体制でした。今は人が足りていません。だからどうしても事故が起きます。

入居者を数人ずつユニットに分けて職員を配置するんですが、この時本来は『見守りのスタッフ』が必ずいなければならないんです。見守りはその場から動いてはいけない。異物を口に入れないか、転倒のリスクはないかと注意するのが業務で、ケアはフリーのスタッフがする。ところが今は人がいないから見守りに

がキツかった。役職者は日中に様々な会議や委員会があるんですが、そこに出席するからと言って現場を離れるとスタッフが回らなくなり。だから会議のあ

る日を予め自分の休日にしておいて、休日出動してこなしてました。当時は月に一日完全に休める日があれば良い方でした。

夜布団に入っても、体は疲労困憊なのに『明日やらないといけない事はアレと

排泄ケアの手袋を使い回し

「劣悪なケア」の現場にいた経験を持つのは横西友美さん(仮名・34)である。

「お泊りデイサービスってご存知ですか? 定員十人程度の小規模施設で、日中はデイサービスをし、希望者は介護保険外ですが夜もお預かりします、という施設です。一泊三千円で、基本的にどんな重介護の人でもお断りはしませんでした。

私が勤めていた施設は一軒家の二階をパーテーションで区切って簡易ベッドを置いただけ。雑魚寝させる

コレと……』と考えたすとドキドキして眠れなくなるんです。仕方ないから朝七時前には出勤してました。帰宅は夜の二十三時とか。精神的におかしくなっていたんだと思う。

給料も少ない。役職につくと手当が一万円ほど貰えますが、逆に残業代が出ない。手取りで十八万十九万円でした。一般職のヘルパーが夜勤をガンガンこなした方がよほど貰えます」

入居者もいましたよ。そんな施設でも家ではとても見られないけど、特養の入居の順番がなかなか回ってこないという家族にとつては、受け皿になったんです。ただ特養や老人ホームと違ってあくまで保険外なので、一時期は自治体も現状把握できていない施設が乱立しました。儲け優先の異業種からの参入組も多かった。私がいたのもそういう施設の一つでした。

経営母体は飲食店で、つ

い昨日まで厨房でモツを焼いていたような人が突然施設長になりました。介護経験者は私だけ。他のスタッフはヘルパーの資格を持っていない普通のおばちゃんたち。『ウチではこうやってお婆ちゃんの世話をしてきたのよ』という素人介護です。

まず驚いたのは排泄ケアをする時、手袋を使い回していた事です。Aさんの介助をした後、そのままBさんの介助を始める、といった具合。普通は一度使った手袋は廃棄しますが、コストを削りたかっただけでしょう。ある時期からは『可能な限り素手で言うように』という指導もありました。

それ以外でも衛生面の酷さは凄まじかったです。通常は高温殺菌する食器類も、家庭用洗剤でサッと洗うだけ。お風呂も一人入れたら消毒するのが常識なんです。が、あそこはやっていなかった。ゴミ箱は常に満杯で、オムツなどから臭気が立ち込めている状況です。

給料は手取り十五万円、その他に月四十時間の

専念できません。見守りの人が一人の入居者をトイレに連れて行って現場を離れ、帰ってきたら別の人が転倒していた、という事もよくあります。

そういう時、見て見ないフリをするスタッフも珍しくない。後で家族が病院に連れて行ったら骨折してい

介護現場に常にある妬みや嫉み

「介護の現場は女性が多く、妬みや嫉みが常にあり

ましたね。特に男女間の問題は意外に面倒な事になりがち。若いスタッフにとつては外の人たちとの出会いも少ない仕事なので、職員同士がくっつく事が多いんです。実は私も職場結婚しました(笑)。職員の人数は

た事が分かった、という感じ。家族には『いつ転んだんでしょうねえ』とか普通に言ったり。てんやわんやの現場で必死に仕事をする中、それでも起きてしまった事故を報告して家族や上司に怒られるのが嫌なんです。だから知らない顔をしてしまう」

ましたね。特に男女間の問題は意外に面倒な事になりがち。若いスタッフにとつては外の人たちとの出会いも少ない仕事なので、職員同士がくっつく事が多いんです。実は私も職場結婚しました(笑)。職員の人数は

三十五人くらいですが、その中で五組がカップルになりました。でも年配の女性職員の中にはそういう雰囲気嫌う人もいて、上司に『あの子は仕事でも男とチョコチョコして困る』と告げ口したり。嫌気がさして辞めようとしたんですが、その時も女性の上司から『辞めるなら今すぐ保険証を返さない。そして辞める日までアルバイトとして働くように』とパワハラまがいの嫌がらせを受けた。保険証がない生活は不安だったので、その時は辞意を撤回したフリをして、一カ月後に電撃退社しました」

彼らは一様に職場の過酷さやブラックぶりを明かし

てくれたが、その一方で介護という仕事に対するやりがいや誇りを持ってきている事も強く伝わってきた。高齢者やその家族の生活を地道に支える人々の労働環境の改善こそが望まれる。ところが実際は状況を悪化させる「介護報酬引き下げ」という決定がなされたわけだ。一般の世界では聞きなれない「介護報酬」という言葉だが、実は介護業界では川上から川下までに通じる生命線である。

事業者は介護保険で定められたサービスをユーザーに提供し、単位数に応じた報酬を自治体から受け取る。この報酬が引き下げられる事で、「これまでと同じケアをしても売上が下がるといふ事態が起きる。売上減少は当然職員の待遇の低下に直結するが、影響はそれだけではない。「特に地域の中小介護企業にとっては大打撃です。潰れるところが続出してもおかしくない」(大手高齢者施設関係者)という。

実際、福岡でサ高住を三施設運営している事業者が

こう嘆く。

「もともとの利益率が10%もない業界です。これだけ大きな減算になると、とても事業は続けられませぬ。実は昨年秋に複数の大手企業に身売りを持ちかけましたが、『今の時点でサ高住を増やすメリットはない』と断られて、契約は成立しませんでした……」

上場企業で大手のチャーム・ケア・コーポレーション

日本語を理解できないヘルパー

こうした状況を受けて、政府はインドネシアやフィリピンなどから外国人労働者を受け入れて人手不足を緩和しようとしている。

しかし、この施策も一筋縄ではいきそうもない。

前出の都内の介護付き有料老人ホームに九十代の母親が入居している六十代男性が言う。

「母が入居している施設にはフィリピン人や中国人のスタッフもいました。困ったのは日本語をあまり理解できない外国人のヘルパーさんがいた事です。『ゴミ

ンの下村隆彦代表取締役もこう指摘する。

「我々のようなスケールメリットを活かせる企業にとっても、今回の報酬引き下げは売上減少に直結します。何より懸念するのは、多くの事業者が介護を離れる事で、実際にケアを必要とする方たちの受け皿が不足する事。介護難民大量発生」という非常事態は、絵空事ではないと感じます」

箱を空にしてもらえませんか」と言ってもキョトンとしている。何か緊急事態が起きた時、これで大丈夫かと不安になりました」

すでに外国人スタッフを雇っている別の施設の関係者もこう指摘する。

「入居者のなかには、単に外国人との接触に慣れていなかったり、文化的な違いを気にしたりで、逆に気を遣うという事で、日本人スタッフを希望される方もいる。外国人スタッフを増やして、単に人手が増えればすべてが解決するとい

灵芝を愛飲の皆様にも、おトクなニュースです!

日本をはじめ、アメリカ・中国の州、国立大学でも
研究用に採用された

高品質 飛驒靈芝

よいものだからこそ長く愛飲してほしい、そう考えたから、この価格が実現しました。三十年以上にわたる科学的
研究、栽培実績の成果を結集したのが「飛驒靈芝」
です。その品質は国内・海外で高く評価され、研究用
靈芝として採用されています。※「飛驒靈芝」は絶縁です。

1kg(23) 30,000円
500g 17,000円

だから長期保存者にこそ、自信を持ってお勧めします

ご注文
お問合せ

<http://www.dai-yakusan.co.jp/>
飛驒靈芝 第一薬産 株式会社

0120-32-0963

第一薬産株式会社 7508-0003
岐阜県高山市本町町59

わけでもないと思います」

介護問題が専門のタムラ
プランニング&オペレーテ
ィング代表取締役・田村明
孝氏が厳しく指摘する。

「今回、介護報酬を引き下げたからと言って、介護保険制度が今後安定的に維持できるかどうかは、どうも思えません。現在は四十歳以上の人が月々約五千円の保険料を納付していますが、将来的には税額を二倍以上にしても財源が足りなくなると予想しています。

国は、施設から在宅へ」という大方針を打ち出していますが、実現に向けた最大の課題は夜間の介護を行う人手不足です。夜間の訪問介護、デイサービスやシ

ョートステイなどの機能を併せ持つ小規模多機能などの事業者や、そこで働く人たちが全く足りていない。

人手不足を埋める為に、外国人ヘルパーを育成するシステム整備や介護ロボットの開発などが進んでいますが、仮にこれらの施策が全てスムーズに実現しても、介護現場の空洞化という問題が一朝一夕に解決する事はないでしょう。

まず考えるべきは、より介護度の重い人の受け皿をできるだけ早く整備する事です。ですが、正直に言っても、それさえも現状では手詰まり感否めません」

八方塞がりの状況を打破する術はあるのだろうか。